

肝臓を専門に診る医師らがボードゲーム「肝炎すごろく」を開発した。

自覚症状の出にくい「沈黙の臓器」

である肝臓のケアに役立つ知識や行動を楽しく学んでもらい、健康への関心が低い10～30代の若年層が生活习惯を見直したり、検査を受けたりするきっかけをつくるのが狙い。イベントなどの一般への無料配布も検討している。

日常の生活が肝臓に与える影響や、ウイルス感染でがんの原因にもなるB型、C型肝炎や「脂肪肝」のリスクの増え方を織り込んだ力作だ。国立国際医療研究センター（東京）の考藤達哉・肝炎免疫研究センター長が新しい啓発を考えるよう依頼。横浜市立大のデザイナーラが、

「沈黙の臓器」 楽しく学んで

ボードゲームで 肝炎予防 医師ら開発

幅広い世代に愛される「人生ゲーム」をヒントに患者の経過を疑似体験してもらうゲームを開発した。

「付き合いでお酒を飲むことが多くなる」（テルコールカード1枚）、「ストレスがたまり食生活が荒れ始めた」（脂肪カード2枚）などリスクのまさに交じって「思い切りサッカーをする」（コイン1枚）といった改善のますも。肝炎に関するクイズに答えつつ「発症」のイベントを避けてカードを増やすコインをためてゴール一番乗りを目指すルールだ。

横浜市立大のミュー・ケーション・デザイン・センターの西井正造助教は



肝臓を専門に診る医師らが開発したボードゲーム「肝炎すごろく」＝3日、横浜市

「楽しみながら肝臓を守ることが身近になるよう願っている」と呼びかけている。問い合わせ先は同センターのウェブサイト、<https://www.cdc.org/contact/>